

座談会：

パブリックスペースでの 喫煙スタイル

さまざまな人がつくる、 街の新しい風景を

人びとの集う風景とは

編集 今年は屋外や外構部といったパブリックスペースにおける、機械や設備に頼らないアイデアを求めていきたいと思っています。また、実現を前提とするものではありませんが、自由が丘南口商店会様のご協力を得て、東京都世田谷区の自由が丘にある自由が丘駅南口緑道（通称：グリーンストリート）を提案場所として設定致します。ここは公共の場所ですが、商店会の方が維持管理に尽力されており、人の行き来と憩いの場所が素敵に共存している場所でもあります。

こういった場所で、人を分けずに煙を分けるような喫煙スタイルのあり方についての提案はどのような可能性があるのか……、まずは審査委員の皆さんにご意見をうかがいたいと思います。

でははじめに、妹島さんいかがでしょうか。

妹島 この場所は、私も何度か行ったことがあります。お店を出ると緑道になっていて、その場所を介してお店の行き来ができるとてもいい場所だと思っていました。

今の社会は、たばこを吸うのには本当に厳しい状況になっていて、外でも簡単に吸うことができなくなっています。灰皿がきちんと設置されて

SMOKERS' STYLE COMPETITION 2009

古谷誠章



ふるや・のぶあき

1955年生まれ／1978年早稲田大学理工学部建築学科卒業／1980年同大学院修士課程修了／1994年八木佐干子と共同でNASCA設立／現在、早稲田大学教授

いる場所が少なくなっているため、設置された場所にたくさんの人が集まって、そこが煙だらけになってしまいます。公園などのよい場所でも、灰皿が置かれているところだけ人口密度が高くなって煙に覆われてしまっているような状態。それは決して最善の方法とは思えないので、こうした街の取り組みとして、もう少したばこを吸う人と吸わない人が共存できる場所を考えていくのは、街の風景を考える上でも求められていると思います。室内でつくったインテリアや空間を外に出したようなアイデアではなく、街全体に広がりのあるアイデアによって、街の風景を変えていけるきっかけをつくり出せたらよいのだと思います。

編集 街の印象について、もう少し具体的に聞かせていただけますか？

妹島 自由が丘の駅を出て少し歩くとすぐ今回の緑道に出るんですね。そこは道なのか広場なのか分かりにくい広さをもっています。夜もわりとたくさんの人がいて、お店と道路が一体になっている場所という感じがします。

六鹿 自由が丘という場所は、小さな街の路地空間が密集していて、特に休日などはたくさんの人が集まっていますが、その中でも、他の路地状になっているところが車の往来があるのに対して、この場所は広い道路であるにもかかわらず、唯一車にわずらわされない場所ですよ。そして今妹島さんがおっしゃったように、どこからが道路でどこが広場になるのか、すごく曖昧な構成になっています。

今は、喫煙者はどこか部屋の中に集められるか、ビルの外部足下に集まって、煙に覆われながらたばこを吸っていて、若干ネガティブな光景をつくり出し、たばこを吸わない人はそんな場所を避けてしまいます。しかし、いろんな人がいる街、外部だからこそ、たばこを吸っている姿が少しでもポジティブな明るい風景に溶け込めば、街に貢献できるのかなと思います。たばこを吸わない私としては、心地よい場所と風景が生まれて、たばこを吸う人を避けて通ろうと思わなくなりたいですね。

妹島 確かに六鹿さんがおっしゃるように、たばこを吸う側とすると、たとえば喫煙室に入ると、みんながたばこを吸うので、気持ちの上での共有感があって、落ち着くんですよ。外だと、そこに一緒にいるのも申

妹島和世



せじま・かずよ

1956年生まれ／1979年日本女子大学家政学部住居学科卒業／1981年同大学院修士課程修了／1987年妹島和世建築設計事務所設立／1995年～西沢立衛とSANAA設立／現在、慶應義塾大学教授

六鹿正治



ろくしか・まさはる

1948年生まれ／1971年東京大学工学部建築学科卒業／1973年同大学院修士課程修了／1978年～日本設計／2006年4月～同社代表取締役社長

し訳なくなるというか、吸わない人が避けているのも分かってしまうので、できればそんな気持ちにならずにたばこを吸えるようであってほしいと思いますね。

2006年のコンペで、「朝のたばこ」(右)という提案があって、あれは今までにない、たばこを吸うためのパブリックスペースの提案だったと思います。だからやはり、インテリアではないにしても、吸わない人もいいなと思える場所をつくれるかどうかが大切ではないでしょうか。

佐藤 私はここをよく通るんですが、前に一度ここで友人に会った時、灰皿がない場所でも自由にたばこが吸える、つまり、居場所としての自由度があったら、もっと一緒にいる人との時間を楽しめるのという話が出ました。今までどんな場所においても、たばこを吸う人の快適性は考えられてきませんでした。喫煙室や灰皿がある場所へ行くという選択肢しかなかったのですが、考えてみると、それはたばこを吸う人だけの問題ではなくて、たばこを吸わない人にとっても、何らかの支障があるのではないかと思います。



2006年アイデア部門優秀賞「朝のたばこ」
大西麻貴・百田有希
使われなくなった工場の床に土を敷き、屋根に穴を開けて分煙空間とするアイデア。

自由が丘駅南口緑道 (グリーンストリート) における提案

SMOKERS' STYLE COMPETITION 2009

外部であること

西沢 この「自由が丘駅南口緑道」は、現状ではどうなっているのでしょうか。写真を見てみると、灰皿が配置されて、分離帯のところはベンチがあって座れるんですね。少し雑然とした感じもありますね。細長い路地なので、風がどう流れているのかも気になります。

編集 ここはアーケードなどはなく、完全に開放された場所になります。室内のように機械的な設備には頼れないと思いますが、そういった場合、設備的な観点からはどう考えればよいでしょうか。

佐藤 ミクロとマクロの考え方があって、室内的に考えるのはミクロの方ですが、今回はマクロ的に考えた方がいいですね。つまり、西沢さんが気にされた自然の風の流れを利用するとか、モノを置くことで煙の流れをコントロールするといったことでしょうか。今まではある室内空間が設定されてきたので、設備シャフトや機械室など、装置を置ける場所がありました。今回は何も無い野原でアイデアを考えるようなことですので、自然要素や、モノの配置が鍵になってくると思います。

編集 今回は屋外ですから、煙やおいそのものをどう処理するかではなく、自然拡散に任せつつも何かの工夫で流れる方向をコントロールするとか、見え方や位置を変えることで全体との調和を図るようなアイデアが必要ということですね。

古谷 ここはもともと川があったところですね。そういう場所の特徴としては、水の流れる方向に風が流れる特徴があるかと思います。つまり、地形的に空気の通り道ができる。以前に川だったというだけで、風は流れますか？ 状況が変わると流れないでしょうか。

佐藤 川に風が流れるというのは、そこに温度差が生まれることで空気の流れができるということなんです。現在は地下に水が流れている状況ですから、今回そういう考え方が使えるかは微妙ですね。

西沢 地形的に見て大幅に街区が変わってなければ、地下に水も通っているとのことなので、風の流れはあるんじゃないでしょうか。

僕は風の存在が気になります。強く流れているとは思いますが、何ら



西沢大良

にしざわ・たいら
1964年生まれ / 1987年東京工業大学工学部建築学科卒業 / 1993年西沢大良建築設計事務所設立 / 現在、東京理科大学、東京藝術大学他 非常勤講師



佐藤英治

さとう・えいじ
1936年生まれ / 1963年早稲田大学理工学部建築学科卒業 / 1985年イーエスアソシエイツ設立



熊倉一郎

くまくら・いちろう
1976年東北大学大学院工学研究科修了、日本専売公社入社 / 1999年～日本たばこ産業株式会社 たばこ事業本部 研究開発企画部長などを経て、2007年6月、代表取締役副社長 たばこ事業本部長兼特機事業担当

かの気流は存在しているように思います。

それから、この場所を見て思うのですが、たばこだけじゃなくて、空き缶やペットボトルなどの飲食のゴミが散見されます。そういう環境の改善も含めて提案されている方がよいのではないのでしょうか。人口密度が高そうなのでいろいろ難しそうですが、ここでは、ひとつの街のあり方が実現したら面白いでしょうね。

熊倉 確かに、単純に灰皿をどう設置するかということではなく、少し視野を広げて考える必要があるかと思います。たとえば、街の美化に厳しいといわれるシンガポールでも、オーチャードロードにはゴミ箱と一体化した灰皿が設置されています。香港も同様です。ゴミや吸殻のポイ捨てを防止するためなのでしょうが、一方で灰皿の周囲に人が集まるという現象が起きています。この度の「自由が丘南口緑道」を題材とした、パブリックスペースでの喫煙のスタイルや風景に対する提案や考え方が、他の街や公園など多くの場所でも応用できることを期待しています。

居場所としてどうあるか

古谷 今回は屋外のパブリックスペースになったことで、話題は広がっていると思うんです。さきほど妹島さんがおっしゃったように、屋内の話で考えると、たばこを吸える場所に入ると、そういう人だけなので親近感もあるし、居心地がいい部分もあります。でも屋外になると、ただ煙が迷惑というだけじゃなくて、歩行喫煙や吸殻の問題等、マナーの側面が出てくると思うんです。それもきっとここで考えるべきテーマになるのかなと思います。

それと、室内でたばこを吸う場合は、喫煙室といったある空間の中に入ることが形式化されていますが、屋外に関しては、そういう場所がつけられているわけではないので、逆におかしな光景が目につきます。僕が教えている早稲田大学にも、屋外に指定の喫煙場所があってそこに人が集まっているのですが、その雰囲気は何か妙です。

何がおかしいのか、と考えると、屋内では必ず煙を吸う機械が真ん中に置いてあったりして、人がそれを囲んで立つんですね。ところが屋外の灰皿にはそういう機能はないので、灰皿の方向を向く必要がなく、みんなが何か所在なげになってしまうんです。もし真ん中にたき火なんかがあれば、すごくいいでしょうね。そういう人の向きをどう考えるかもヒントにならないでしょうか？

学校で、よく生徒に話すのが海辺の話で、ビーチパラソルの問題とっているのですが、海辺では、あんなに広い場所でみんながバラバラに集まるのに、揃って海の方を向くから、なんとなく秩序が保たれています。お互いの距離もほどよく取れている。もし海がない砂だけの場所だったら、きっとすごく困ると思うんです。海があって、そこに向

かってかすかに傾斜がついている地形があるので、みんなが所在なげになることなく、快適に過ごしていられます。

ここは昔は川だったと聞いたので、そういったことを生み出すきっかけとして、地形を考えられないかなと思いました。

六鹿 カフェテラスなんかも広場とか道路側にみんなが向いていますよね。そういう人の向きは大事なんでしょうね。

西沢 通りの幅もあるように思います。真ん中の広場的な空間とその両側の歩道の幅を変化させてみるだけでも、人の行き来や居場所のあり方を大きく左右するように思います。

もうひとつ思うのは、ひとつの場所に集まる時に、たとえば食事は、食事をするためだけに人が集まるというのは自然の行為で、誰でも、どこでもやっていることなんです。たばこを吸うためだけに集まるというのは、行為としてはやや不自然なので、そこに違和感を生じるのでしょう。食事をしながらたばこを吸って人が集まるとか、たばこを吸いながら携帯を操作するとかならよいのかもしれません。灰皿があって指定された場所は、たばこを吸うためだけに集まる場所になってしまうこと自体に何か無理があるように思います。

熊倉 確かにある種ショーウィンドー的な、観る・観られるといった要素を検討する必要があるかもしれません。そこにいる人や通行する人のことを考えることが重要であると共に、少し離れた場所からの見え方とか全体の風景という観点が必要になってくるのではないのでしょうか。つまり、たばこを吸われる方にとっても吸われないにとっても、これなら気にならないとか、不自然ではないと思えるような提案があると、街の中で起きている問題の解決に少し近づくのかもしれない。

妹島 そうですよ。たばこを吸うという行為だけ考えてみると、それでも喫煙室は、たばこを吸うために入ってきた共通意識があるのでまだよいのですが、たまたま通りすぎた場合は、吸う人同士が居合わせてもちょっと気まずかったりします。たばこを吸う行為以前に、まず人が居やすくなれる場所の仕組みが必要なのかもしれないですね。ただ、たばこを吸うことばかり考えてしまうと、パブリックスペースで喫煙者が集まることへの居心地の悪さが解消されずに、よい結果にならない気がします。

西沢 パブリックスペースでは、たばこを吸う吸わないで場所を分けなくてもいいんじゃないかと思います。たばこだけじゃなくて、たとえば子供連れのお母さんなんかは、いつ子供が泣き出してしまうかわからないので、パブリックスペースには行きづらかったりしますが、子供のためのゾーンがあると気軽に行ける現状があります。でもそういう風に分けてしまうことがよいことなのか、どうしても納得できないんですよね。

佐藤 確かに、オープンな場所でなぜ分けるのかという議論もありますよね。



テーマ座談会風景。／撮影：本誌写真部 高橋菜生

SMOKERS'S

古谷 あるゾーンが決まっているというのではなくて、そこにいる人たちが、それぞれにその場所の状況に応じて気持ちのよい場所を発見できればいいのだと思うんですね。

六鹿 この場所は、両側に商店がある場所としては、その前の歩道があまり他には見ない幅をもっていると思います。銀座のような大規模な街では歩道は広く取られているかもしれませんが、普通の商店街は、店舗がひとつの歩道を介して向かい合います。だから立ち止まれる場所がなくて、歩くことぐらいしかできないですね。この場所のように、歩道があって、さらにその真ん中に人のいる場所がある商店街はあまり見かけません。この人が居られる空間を含めて、周辺の商店街全体をより豊かにする提案を求めた方がいいと思いますね。

佐藤 場所によって分けていくこともあるかもしれませんが、時間帯によって変わることもあり得るでしょうね。午前中や午後、平日や休日の街の姿はきっと違っているはずですから。時間帯という視点も、たばこを吸う人と吸わない人の新しい関係性への提案につなげていけるんじゃないでしょうか。

街と人の新しい風景を

六鹿 ここで動かしてはいけないものは木々ですね。あと、ちょっとした段差なんかも、今の街の魅力をつくっていると思います。商店会からの要望については何かお聞きになっていらっしゃるでしょうか？

編集 この緑道は、もともと違法駐輪がとて多い場所だったそうです。それを自由が丘南口商店会の方が自主的なアイデアとして緑道にベンチを配置し、街を行き交う方へのおもてなしと違法駐輪の防止を両立されたそうです。そういう取り組みからも、商店会の方々の街をよくしたい、魅力ある街にしたいという想いが伝わってきます。

この度私たちの活動に快くご協力いただいたのも、たばこを吸われる方も吸われない方も街を利用するお客様であると認識され、共存できるような街づくりを真剣にお考えになっていらっしゃるからだと思います。今回のSMOKERS' STYLE COMPETITIONのテーマに取り上げられることで、よい環境をつくるきっかけにもなり得るのではと期待されているのではないのでしょうか。

今回は、こういった街の人たちの声を審査委員の先生方と共に聞き、応募者の皆様にお伝えできたらと思っていて、応募期間中に、審査委員の先生方と一緒に自由が丘南口商店街を歩き、商店街の方々と話をする機会を設けたいと思っています。→[見学レポートについては『新建築』2009年4月号掲載予定](#)

是非、街を歩きながら、その場所にある問題ですとか、街の可能性について、皆さんと一緒に具体的に話をさせていただけたらと考えています。

さて、さまざまな意見が出てきましたが、今回は屋外ということで、メインテーマとしては「パブリックスペースでの喫煙スタイル」となりますが、具現化しないとしても、実際の街の状況を受けての提案を求めますので、サブテーマを考えたいと思います。今までの話から、何か応募者の方のヒントになるような一文をご提案いただきたいのですが、いかがでしょうか。

古谷 今回は、外部になったことで、よりたばこのマナーの幅を広げて考えてみる必要があるのかなと思います。公道でたばこを吸う時に、佐藤さんがよくおっしゃるように、たばこを吸う人がよりかっこよく見えるようなことがサブテーマになるといいのではないのでしょうか。

また、たばこを吸う人のためだけじゃなくて、いろんな人が共存できるような場所をつくるという意味で、「風景」という言葉が入っていると分かりやすいかもしれないですね。室内、喫煙室でたばこを吸っている人にそういう意識は必要ないかもしれませんが、パブリックスペースですから、姿を見られていることについて意識してほしいという思いがあるので……。

六鹿 なかなか難しいですね。では、「屋外での分煙、新しい風景の発見」はどうでしょうか。もしくは「新しい風景の提案」。

古谷 人がいることを意識してほしいから、「パブリックスペースでの喫煙スタイル」、「新たな人びとの風景を求めて」などはどうでしょうか。たばこを吸っている姿は見られていますよという気持ちと、吸わない人も、ああいう場所だったらいいなという人の想いが込められる。

編集 「新しい街の風景」ではだめですか？

古谷 それだと、人より街になってしまうから。

編集 「人びとが集う風景」。

西沢 街よりはいいかもしれませんが、「人びとの集う、新しい風景」？

妹島 「新しい」はなくてもいいんじゃないですか？

編集 では、「パブリックスペースでの喫煙スタイル 人びとの集う風景」でどうでしょうか。

全審査委員 いいですね。

編集 それでは、決定したいと思います。2009年のアイデア部門のテーマは「パブリックスペースでの喫煙スタイル 人びとの集う風景」とします。

古谷 今回は、コンペとしては第3回目となりますが、はじめて街がテーマとなり、機械や設備といった観点ではない視点で喫煙のスタイルを考えましようという課題になります。人は分けずに煙を分けることを、屋外で実現することは難しい部分もあると思いますが、街を考える上では今後必要な視点になると思いますので、みなさんからの多彩なアイデアを期待しています。

(2008年12月19日、日本たばこ産業にて 文責/本誌編集部)

STYLE COMPETITION 2009

募集期間 2009年3月1日～6月29日